



# 八千代オイコス かわら版

第40号

令和元年6月15日発行  
NPO 法人八千代オイコス  
<http://www.yachiyo-oikos.jp/>

## 「田植え」 米づくり体験のスタートです。



### 米づくりをとおした「ふるさと八千代」への願い

いよいよ、八千代オイコス「米づくり体験」事業がスタートしました。超大型ゴールデンウィーク10連休の最終日(5月6日)に田植えを行いました。

八千代市は、南部では都市化が進む一方、北部には多くの谷津田が残っており緑豊かな田園風景が広がります。そういう八千代市だからこそできる体験、この谷津田の自然環境保全を兼ね農作業の体験をしていただく場として、「米づくり体験」を企画しました。ふるさと八千代として、都会ではできない八千代ならではの体験をしてもらうことで、ふるさととしての八千代を感じてもらえれば幸いです。

スタッフ 金室 彰

## どろんこになった田うえ

小学3年 西 正登

この前、田うえをしました。今回は2回目なのでがんばりたいと思いました。

はじめに、もち米のなえをうえました。そのときに、となりにいたおじさんがよろけて、そのままぶつかってきて、ぼくはたおれてしまいました。

そしてつぎはコシヒカリのなえをうえました。その前にドロドロにふくがよごれたので着がえるかどうかまよいました。でも、着がえずにがんばりました。

なえをうえるときに、「2、3cmくらいねっこを土の中に入れましょう。」と今回も前回と同じことを言われました。そして、「ここは、日当たりがわるいので3本ではなく、5本くらいずつうえましょう。」と言われました。うえおわったあとにさむくなってきたので着がえました。

はじめてたくさんドロドロになったのでびっくりしました。今回も楽しかったです。また今後の活動も楽しみです。

あと、今回はテレビ局の人がさつえいをしてくれ、ぼくが田うえをしている姿がバッチリうつっていて、うれしかったです。

## 田植えを経験して

中学1年 和田 悠汰

従姉妹のお父さんに誘われて、今回弟と一緒に『米づくり体験』に参加しました。

最初に田んぼに入ると意外に深く、前に進むのがやっとでした。でも、自分の持ち場まで歩いて行くにつれて、段々と慣れていきました。弟といここは田んぼに足がはまりこんでしまい、大変そうでした。

持ち場に着くと、いよいよ田植えです。農家さんが簡単そうにやっているのを見て、自分にもできそう！と思いましたが、やってみるととても大変でした。土がある所とない所があったので、均すのに一苦労。苗を植えるのも曲がってしまうので、一列に揃えて植える工夫をしました。最後に見渡すと苗が一列にきれいに並んで、見ていて気持ち良かったです。田植えの後の昼食は、格別でした。

僕は生まれて初めて田植えを経験して、改めてお米作りの大変さに気付きました。農家さんの思いがあって、美味しいお米ができるのだと思いました。秋の稲刈りが、とても楽しみです。

## トトロの森のようだね

大澤 麻倫子

先日、4歳と2歳の娘二人を連れて田植え体験に参加しました。次女は田植え初体験ですが、長女は2歳の時から別団体主催の田植えを体験しており、今年で3度目になります。今回オイコスの田植え体験を選んだのは、実際に植えた稲がどう成長してお米が実り、食べられる状態になるのかを、一年を通して体感できるプログラムだったからです。当日は長靴着用とのことでしたが、子供には直に泥を感じて欲しかったので、裸足で参加しました。長女が初めて田植えに参加した時は、田んぼを怖がってちっとも入ってくれませんでした。それでも毎年参加しているかいがあり、今年はおイコスの方に一番上手だったと言ってもらったので、農家の嫁はどう？と誘われるほどの腕前になっていました！後半は疲れが見えましたが、最後までやり遂げて、主人も驚く成長っぷりでした。次女は、長女の初参加の時と同様、田んぼには一回足を付けただけで入ってくれませんでした。きっと来年は入れるようになると思います。また、田んぼの周りの自然も豊かで「トトロの森のようだね」と娘と言いました。大変な準備をして下さったオイコスの皆様に感謝すると共に、今後の稲の成長が楽しみです。



## 初めての田植え体験

黒川正敏

オイコスメンバーの紹介で米づくり体験に初めて参加させていただきました。

米づくり体験は5月の田植えから始まって毎月の草取りや9月に稲刈り、10月に脱穀、12月に収穫祭（餅つき会）と続きます。

ゴールデンウィーク最終日の5月6日に10名の子供を含む27名が田植え体験をしました。

この日は良い天気です。汗ばむ陽気でしたが、田んぼのぬかるみに足を取られながら所定の場所に一直線に並んで田植えを始めました。

係りの方が端から端までひもを準備して（植える場所に赤で印をしていた）、合図で一斉に植えるようにしました。一列目が終わると次の列にまた線を引っ張って田植えをするといった順序で行いましたが、当初は慣れなくて植えた場所がまばらになっていました。

田んぼの四分の一ほどにもち米を植え、残りを白米（コシヒカリ）を植えました。

後半は参加者も田植えに慣れてきて作業が早くなってきて2時間ほどで全て植え終わりました。

普段使わない筋肉が翌日になって筋肉痛で数日間は腰と大腿部が痛くて苦労しました。

まだ先は長いですが貴重な体験ですので頑張って参加しようと思います。



## 米づくり体験・田んぼの会

令和元年5月6日。32年ぶりのコメ作りの体験の初日「田植え」を体験しました。思い起こせば息子が小学4年の時、地元宮内の方の話で、休耕田を利用した米づくりの話が盛り上がり12・3人の親たちが発起人となり（子供が小6卒業まで）挑戦した。私の役割は、事務局（世話係）行事当日万が一のけが等に備え車を田んぼの近くで待機していること。夏休みの子供たちと観察日記の手伝い等でした。今回参加するにあたり、長靴・作業ズボン・長袖シャツを買いそろえ当日を楽しみに参加しました。実作業は今回が初めてです。

まずは、もち米の田植えでオイコスの役員の方から「もち米の苗」を頂き隣の我が家の孫より小さい小3の男の子と仲良く係りの方の掛け声から苗の塊から3～5株をそっと指の間に入れて2・3cm位差し込む。始めの1列は、教えてもらった通りに植えられたが、2列目からは自分の長靴の跡の穴を周りの土を寄せてからでないと上手く植えられる。そんなこんなで少し慣れて来たころ、後ろの列に移動する際に左足が完全に抜けていない前に右足を動かそうとしてよろけた拍子に左足が長靴から抜けてしまい膝をついてしまった。隣の子供は私が転ばしたのかもしれない（大変申し訳ないことをしてしまった）朝、あれだけ嚴重にひもで足を縛ったのに・・・

休憩に入り手足を洗い昼ご飯。午後からは“うるち米”の田植え。今度は多少コツが判り慎重に作業をした。

今日はここまで”お疲れ様”の声で田んぼから上がり作業が完了した後の田んぼの風景を見て、すごく感動した。

小さな子供から70過ぎのじいさんたちが植えた苗を眺めると、それなりに列をなし様になっていた。共同作業の楽しさと、童心に帰った気持ちでの作業がとても良かった。足腰の筋肉痛は勲章か？

72歳の爺さん 中村正人

# 2019年度

# 活動予定表

月	日	曜日	項目
4	1	月	広報やちよ(米づくり)掲載
	14	日	第19回オイコス総会・定例会・勉強会
	21	日	米づくり説明会
5	6	祝	米づくり(田植え)
	12	日	花輪川作業・米づくり(補植)・定例会
	25	土	市民活動運営委員会事業報告会
6	1	土	かわら版第40号発行
	2	日	米づくり(草取り1回目)
	9	日	花輪川作業・定例会
	18	火	川の学校公募開始(チラシ学校配布)
	21	金	緑化公社苗配布(サルビア)
	30	日	米づくり(草取り2回目)
7	1	月	広報やちよ(川の学校)掲載
	14	日	花輪川作業・定例会
	15	祝	米づくり(草取り3回目・自然観察会)
	15	祝	川の学校公募締切り
	15	祝	広報やちよ(ホテル観賞会)掲載
	21	日	花輪川作業・川の学校最終打合せ
	28	日	川の学校 in 花輪川(Aコース)
8	3	土	ホテル観賞会@石神谷津
	4	日	川の学校 in 花輪川(Bコース)
	18	日	花輪川作業・定例会
	31	土	川の学校慰労会

月	日	曜日	項目
9	1	日	かわら版第41号(川の学校特集号)発行
	8	日	花輪川作業・定例会
	15	日	米づくり(稲刈り・ハザ架け)
	29	日	ボーイ・スカウトディー(共同活動)
10	1	火	広報やちよ(秋のエコウォーキング)掲載
	6	日	米づくり(脱穀)
	13	日	花輪川作業・定例会
11	20	日	秋のエコウォーキング
	8	金	(仮)緑化公社苗配布(パンジー)
	10	日	(仮)市民活動フェスティバル2019
12	17	日	花輪川作業・定例会・米づくり(籾摺り)
	7	土	オイコス忘年会
	8	日	花輪川作業・定例会
1	14・15	土・日	米づくり(収穫祭)準備・餅つき会
	12	日	花輪川作業・定例会
2	15	水	コープみらい財団助成事業活動報告
	1	土	かわら版第42号発行
3	9	日	花輪川作業・定例会
	1	日	広報やちよ(春のエコウォーキング)掲載
	7・8	土・日	(仮)新川千本桜まつり
	11	水	米づくり公募開始(チラシ配布)
	15	日	花輪川作業・定例会
	22	日	春のエコウォーキング

※2019年度八千代オイコスの総会では、今年も、環境保全活動として継続的に取り組んでいる花輪川の川作業を基本として、そこで開催する川の学校や春秋のエコウォーキング、また、ほぼ1年という長いスパンで行う島田谷津での米づくり体験等々を行っていくことが確認されました。これらの活動は、「八千代市の自然環境保全」と「まちづくりに寄与する活動」を基本理念に、市民・行政・企業等とのパートナーシップにより展開していきます。



特定非営利活動法人  
八千代オイコス  
団体番号

# 28

## 「八千代市市民活動団体支援金交付制度」投票(届出)のお願い

この制度は、市民の皆さんが、市民活動団体の中から支援したい団体を選んでいただくことにより、団体に補助金が交付される制度です。皆さんに投票していただくことで、「豊かな自然を感じられる花輪川活動」のための資金の一部となります。今年も八千代オイコスへ投票(届出)をお願い致します。団体番号：28(特定非営利活動法人八千代オイコス) 詳細は広報やちよ令和元年6月1日号をご覧ください。



## 春の菜の花エコウォーキング

晴天に恵まれた3月24日（日）、24名の一般参加者とスタッフ、総勢35名で春の日を楽しみました。桑橋（そうのはし）バス停から、左右に広がる田んぼ道を、のんびりウォークです。

当市は3万年前から人が住みつき、農業を主とした生活の伝承が現在に継承されています。薬師堂、弁天祠、地藏堂、参拝登山碑などが、人々の営みを今に伝えています。

のんびりウォークと言っても一時間以上の歩きで疲れも感じる頃、ご好意で「むつみの森」で一休み、ボランティアの方から整備のご苦勞も伺い、貴重な環境維持に感謝。桑納地区に飛び地として鎮座する、桑橋熊野神社を参拝。桑納橋から、メインテーマの清掃活動です。

この付近は、車内から、また、車で運んで来てのゴミ投棄が目立つ所。スタートから分別を考えての役割分担で行った事により、短時間で多くのゴミが回収出来ました。取り組む度、ゴミ投棄の根絶は困難である事を痛感する。

収集が終了し、オイコス花輪川ベースでは、高秀牧場さんのご好意での朝、搾りたての牛乳を、ホット牛乳でいただき、疲れをいやして、解散となりました。有難うございました。

スタッフ 小林 和幸



## 印旛沼と千葉県の工業

江戸時代から約300年間洪水に悩まされて来た印旛沼が再び豊かさをもたらす沼に戻ったのは昭和44年の印旛沼開発事業竣工を迎えてからのことです。そして、印旛沼の水を産業の為に利用することとなったのは印旛沼開発事業計画の第1次改定計画(昭和31年2月)からです。現在の京葉臨海地域への配水は戦後の日本の工業復興の為に付け加えられたもので、現在では千葉県を支える重要な水瓶となっています。

印旛沼の水の約58%が水道用水、農業用水、工業用水等の利用水として、残りの水は洪水排水、あるいは常時印旛沼の水瓶から溢れる水として利根川へ流れ出ています。工業用水は利用水のほぼ63%です。

印旛沼からの工業用水は千葉市、市原市、袖ヶ浦市、佐倉市の企業に配水され、食料品工業、石油や製鉄等の重化学工業などの産業に利用されています。印旛沼の湖岸にある浄水施設で工業用水水質基準(濁度:15度以下、pH:6.0以上8.5以下)を満足する水に仕上げ8.34m<sup>3</sup>/秒もの水量を主に京葉臨海地域の企業へ送っています。その後、各企業ではそれぞれに更に必要な浄化を行っています。

以上、各企業の努力によって、印旛沼の水を受けている京葉臨海地域の平成26年の生産額は約3兆2400億円で、これは京葉臨海地域の生産額の約36%、千葉県の総生産額の約17%となっています。ここで、もし、企業の浄化施設が必要ないほどに水が綺麗であったらどうでしょう。その分、水環境のみならず、千葉県の産業の競争力や水の経済的価値が増すとは思いませんか。印旛沼流域に住む私たちへの重い課題ではないでしょうか。

オイコス会員・NPO 法人水環境研究所理事長  
瀧 和夫



## オイコスと環境活動

▲5月18日(土)、ヤマトミクリ里づくり協議会総会に出席した。この協議会は平成23年島田谷津内に希少種として生育している<ヤマトミクリ>をシンボルとして、島田谷津里山の保全・保護を目的として地域住民・市民活動団体・行政一体となり、スタートした。オイコスが昨年よりこの地の一角で「米づくり体験」活動を始めたことは、里山保全活動の応援にもつながる活動であると自負している。

▲ところで県内の水田で稲を喰い荒らす南米原産の巻貝(通称:ジャンボタニシ)が多発生の恐れありと、県農林総合研究センターより県内全域に注意をとの発表があった。

島田谷津内の田んぼにジャンボタニシが見つかったとの話は聞かないが、このタニシも南米が原産とのこと。外来種の繁殖は旺盛だ。過去外来種の攻勢で国内の貴重な種が衰退に追い込まれた例は多い。有難くない生き物には厳重な対策が望まれる。

▲環境保全活動の内容は幅が広く、地球規模~花輪川迄とその活動は無限にある。

我々オイコスは、まずは身近なところから豊かな自然を残すための活動に取り組んでいきたい。

八千代オイコス 代表 川瀬純一

## 新会員紹介



金田克明(カナダカツアキ)と申します。戦後の生まれで72歳です。九州宮崎の田舎育ちで、30歳半ばから千葉県の子供となりまして。

田舎にはドジョウ、メダカ、鰻、田螺(タニシ)、蛭(しじみ)、ミナ、鮒(ふな)、鯉、鯰(なまず)、家畜・農・動力として、牛、馬、山羊、鶏(にわとり)等が各家庭にいて、家族同様か、食糧その他として生活していました。現在は家庭菜園を30年ほど。空豆、枝豆、落花生、ラッキョウ、甘柿、渋柿、梅、蜜柑(みかん)、伊予柑、八朔(はっさく)、柚子、キウイフルーツ、木苺等。オーガニック、ミミズ農法、無農薬が基本です

という聞こえがいいですが何しろ収入が少ないので自分なりの知恵を出して生活をしています。特に落花生は健康材料としておおまさら(大粒)を育て、酒の肴、ビールの友、麺類の薬味として食しています。体力がある人は体力を出し、知恵のある人は知恵を出し、金のある人は金を出し、何もない人は和味(なごみ)というか和の雰囲気を出す!などと、自問、持論し、老後を考えながら生活しております。身体を動かすことを苦手とっておきませんので、よろしくご指導下さいますようお願いいたします。

### 編集後記

4月14日、平成最後の八千代オイコス総会を開催しました。書類の日付けを平成にするか、西暦にするかが話題になるなど、今年ならではの光景が見られました。時代の変り目にあるオイコス。今年度もがんばります!

(NONN)



発行責任者: 川瀬 純一

問合せ☎: 090-8511-3086

mail: info@yachiyo-oikos.jp